

新学習指導要領における民俗学教材の開発—ちんころ祭と半田市立雁宿小学校の取り組みを中心に

山下雅仁

論文要旨

本論文は、ちんころ祭と半田市立雁宿小学校の取り組みをもとに、新学習指導要領における民俗学教材の開発を目的としている。

第1章では、新学習指導要領が2020年度から全面実施となることに対応して、新学習指導要領が第4学年伝統と文化に関する社会科の単元で求められる課題を明らかにした。その課題は下記の3項目である。

文化財や年中行事の発展と地域の変化との関連を理解することができるか

保存や継承に関する人々の願いや取組に着目して、文化財や年中行事の様子を捉えることができるか

文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る過程を捉えることができるか

次に、愛知県半田市の副読本『郷土読本 はんだ』をとりあげ、この地域副読本が新学習指導要領の求める課題に対応できるか検証を行った。検証方法は1964年度版の『郷土読本 はんだ』と2017年度版の『郷土読本 はんだ』の記述内容を上記の課題に照らし合わせ、対応できるか検証をした。地域の変化や、保存や継承に関する人々の願いや取り組み、現在に至る過程の記載がないため、『郷土読本 はんだ』は新学習指導要領に適應できる地域教材とはいえないことが明らかになった。

第2章では、愛知県半田市の上半田地区における「ちんころ祭」を文献調査とともに現地調査を行った。現地調査では住吉区関係者、ちんころ祭実行委員会関係者への聞き取り調査とともに、ちんころ祭とその練習や準備について観察調査を行った。そして、文献調査と現地調査の結果から、ちんころ祭の変化と上半田地区の変化との関連や人々の生活との関連を明らかにした。その結果をもとに、新しい学習指導要領に対応した地域副読本の教材開発を行った。

第3章では、半田市の上半田地区にある雁宿小学校の取り組みを取材し、同校において筆者が制作した地域副読本である「郷土読本 はんだ - ちんころ祭編 - 」を活用した4年生社会科の授業計画を提案した。まず、聞き取り調査と観察調査から雁宿小学校の地域の祭礼行事に関する教育と学校での取り組みを把握した。次に、新学習指導要領と中央教育審議会の答申をもとに、新たな3観点の評価基準を設定した。雁宿小学校の祭礼行事に関する教育の実態と3観点の評価基準をもとに単元構想案を作成した。この単元構想は3点の特色がある。1点目は祭と地域とを関連させながら学習することである。祭と地域という2つのことを対象とすることで、相互の関連を考える力を養うことができると考えた。2点目は保存や継承に携わる人と直接対話することである。実際に祭に携わっている方から祭の保存や継承に関する取り組みや思いを聞くことや、児童自身が質疑することによって、

祭の様子を具体的に捉えることが出来るようになると思った。3点目は現在に至る過程に重点を置いた点である。約50年前から現在の範囲に特に重点を置き、今の自分の生活にとって無縁なものではなく関わりがあることに気づかせることにより、実体験を踏まえ変化の様子を捉えさせることが出来ると思った。

本論文における成果は次の3点である。

- () 現在発行されている「郷土読本 はんだ」は新しい学習指導要領が求める下記の3項目に対応できていない副読本であること。
 - 文化財や年中行事の発展と地域の変化との関連を理解することができるか
 - 保存や継承に関する人々の願いや取組に着目して、文化財や年中行事の様子を捉えることができるか
 - 文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る過程を捉えることができるか
- () ちんころ祭の現地調査をもとに新しい学習指導要領が求める課題に対応した新しい「郷土読本 はんだ - ちんころ祭編 - 」を制作したこと。
- () 雁宿小学校の取り組みや実態をもとに、「郷土読本 はんだ - ちんころ祭編 - 」を活用した新しい学習指導要領に対応した4年生社会科の単元計画を示したこと。